

岩手医報

平成2年9月 №30

編集 発行

岩手郡医師会

題字 粟石町高橋孝先生



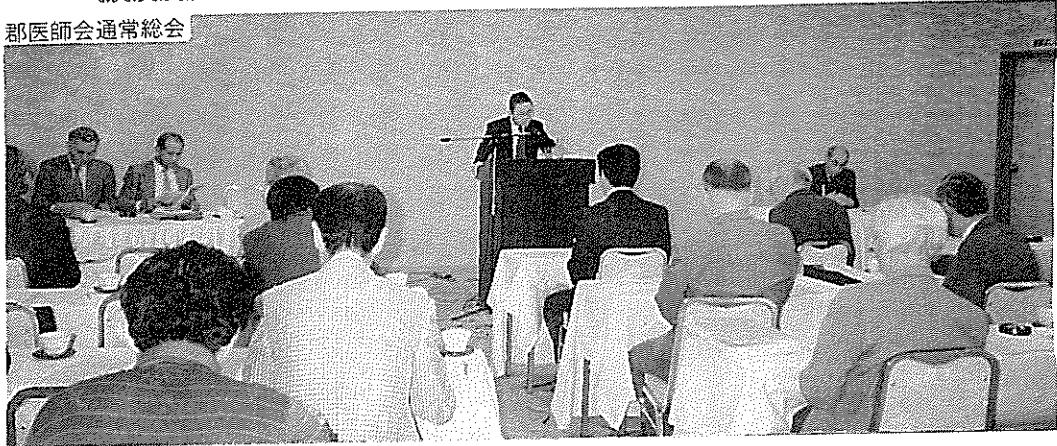
岩手山登山の思い出

網張国民休暇村より、網張スキー場の第一リフト、第二リフトそして、第三リフトと乗り継ぐにつれ、空気はひんやりとほてった肌に快よい。朝方は曇りだった岩手山も今はすっかり晴れ上がり、美しい姿をみせ、遠く眼下には粟石町が望まれた。今日は高橋会長の発案による岩手郡医師会の岩手山登山である。参加者は、会長御夫妻とその職員、西島先生とその職員、瓜田先生、高橋孝先生御夫妻、小生と職員の総勢21名である。犬倉山まで延長された第三ペアリフトを降り、鎌倉森を目指し、全員ゆっくりゆっくり登山を開始した。鎌倉森まで片道約40分でここからは岩手山が目前に望めるところだ。道中お新香を食べたり、おむすびを食べたり、水筒から液体（水、ジュース、ポカリなど）を飲んだりして、にぎやかに、そしてゆっくり登った。写真はその途中での全員の記念写真で高橋孝先生が写されたのでこの中にはいないが、奥様は前列右に写って居る。

目的地まで登った人、途中で下山した人、それぞれの体力に合わせた登山でした。昼食にレストランに帰着し、全員で乾杯をし、ジンギスカンを心ゆくまで食べ、来年の郡医師会のレクレーションは何にしようかなどを話し合い、和気あいあいの中に楽しい岩手山登山は終了した。（上原記）

目 次	岩手山登山 松本ミッ子……………13
岩手山の思い出……………1	岩手山登山に参加して 栗畠良子…13
平成2年岩手郡医師会通常総会……………2	第42回岩手県医師会親睦野球大会始末記
平成元年度一般会計決算書……………6	近藤純造…14
平成元年度休祭日当番医決算書……………7	ピッチャー 上原充郎……………16
平成元年度特別会計決算書……………7	おらほの先生 佐々木医院の巻…17
岩手郡医師会理事会記録……………8	隨想 懐 高橋孝……………18
第42回岩手郡医師会総会・第84回岩手医学会総会に参加して…11	保育所健診こぼれ話 嶋 信…19
平成2年度岩手医大卒業会・医学部同窓会評議委員会総会に参加して…12	編集後記……………20

平成2年 岩手郡医師会通常総会



岩手郡医師会通常総会次第

▼ 日 時 平成2年6月9日(土) 午後4:30
 場 所 盛岡市大通り ホテル東日本
 議長着席 出席者確認・資格確認
 現在会員数59名 出席者27名 委任状20名よって総会は成立。

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 報 告
 - (1) 岩手県医師会学校医部会

担当 高橋 孝 副会長

5月12日(土)県医師会館において行なわれ、平成2年度事業、行事予定、県教委への要望、学校医報酬調査などを行なった。

- (2) 岩手県医師会福祉担当理事連絡協議会
 厚生年金基金について

担当 坂井 理事

6月30日(土)県医師会館で開催

- 1、厚生年金について加藤会長より説明あり
- 2、設立の経過報告
- 3、委員長に加藤会長・副会長に佐藤副会長を選出
- 4、総幹事会社に大和銀行を選定

5、今後の基金設立スケジュールについて

6、小委員長の選出

7、その他Q & A

厚生基金が設立されるかどうかは、今後の検討の結果であるが、加藤会長は平成3年4月1日を目標に設立したいと考えである

1) 必要性。

早いテンポの高齢化社会に対して従来の公的年金だけでは不充分。そこで厚生年金基金会を作り、国の基本部分を代行し、さらに加算部分を加えて職員の老後の生活安定を計ろうとするもの

{基礎年金(従来の老令厚生年金) 紿69% - 報酬比例176,000 円(69%)}

{厚生年金(老令厚生年金) 事業主負担1.7% - 197,000 円}

2) 普及状況?

H.2年5月1日現在 1,407基金 - 927万人
 (32%)

病院関係 32都道府県で30基金、東北では岩手、山形が未設立

3) 従業員のメリット?

イ) 従来の掛け金で手厚い年金が得られる

ので、メリットだけでデメリットはない。

ロ) 退職金支払いのための費用が、基金で確実に積み立てられるので安心。

ハ) 福祉施設が利用できる。(育英資金、住宅ローン、保養施設等)

4) 事業主のメリット

イ) 退職金が事前に準備できる。

ロ) 掛け金が全て損金になる。

ハ) 福祉制度が充実することにより、優秀な人材が確保出来る。

ニ) 事業主、役員も厚生年金保険の被保険者であれば加入できる。

5) デメリット?

企業にとって掛け金が増加する。

1人約3,400円(1.7%)の負担

(3) 岩手県医師会産業医部会

平成2年度産業医部会事業計画

担当 西島理事

1. 産業医活動と産業医の地位向上

2. 産業医研修事業の推進

3. 産業医活動促進対策事業への協力

4. 小規模事業場における産業医活動の促進

5. 産業保健連絡協議会の運営

6. 産業医名簿の定期刊行及び手引きの改訂

定期一般健康診断における聴力検査について

労働安全衛生規則改正に伴い、昨年10月から定期一般健診に聴力検査が導入されました。オージオメータの機種選定、納期等について不明の点が多く、産業医の先生方には多く迷惑をお掛けいたしております。

県医師会産業医部会では、予てから専門の先生方のご意見を承ることで準備を進めておりましたが、現在下記の様な情報を得ておりますので取り急ぎお知らせ致します。

記

1. この度日本耳鼻咽喉科学会発行の「選別聴力検査法—産業医および耳鼻咽喉科医

のための手引きー」入手しましたので、各郡市医師会宛に2部お送りいたします。

2. 日本耳鼻咽喉科学会では産業医・環境保健委員会において本件に関する検討を進めておりましたが、この度、花巻市医師会の渡辺勤先生(同学会岩手県産業医・環境保健委員会委員長)より先日開催された同委員会協議事項の要点をお知らせいただきましたのでお伝えいたします。

(1) オージオメータについて

①原則的にJIS規格品であれば、どのメーカーの製品でも可とする。

②ただし、データの信頼性や(耳鼻科医による)二次検診などの措置面を考慮すると、日本耳鼻咽喉科学会が推奨する機種が望ましい。

③学会で企画した機種は現在のところ次の3種である(カタログ写別添)

R I O N A A - 54 リオン㈱

250,000 円(定価)

D A - 301 ダナ・ジャパン㈱

250,000 円(定価)

P H Y - 1000 モリタ製作所

199,800 円(定価)

(2) 検査担当者について

聴力検査に関する正規の講習を受けた者。この講習会は全国衛生団体連合会が行なっており、近いうちに地方でも実施の予定。

(3) 判定と事後処理について

①一次検査

産業医の管轄、即ち労働省の基準による。

②二次検査

耳鼻科専門医が行ない保険診療の対象となる。厚生省管轄。

(4) 検査料金について

保険点数の「簡易聴力検査」80点が参考になると思われる。

(4) 岩手県医師会保険問題協議会

担当 高橋(牧) 会長

平成元年度 個別指導における主な指導事項
について

〔診療録〕

- 1、診療録の様式は療養担当規則に定められた様式又は、これに準ずるものを使用すること。
- 2、点数算定するものは、全て2号用紙の処方、処置欄に記載すること。
- 3、診療録の3号用紙について、診療日毎の合計点数及び種別の記載省略が多いが記載充実につとめること。
- 4、誤記した場合の訂正方法は、修正液を使用しないで二本線で訂正しその経過がわかるようにしておくこと。
- 5、診療録は、保険請求の根拠であることを認識し、症状、所見、治療計画などの記載充実につとめること。
- 6、初診時における患者の主訴、現病歴、症状及び経過がほとんど記載がないこと。
- 7、略字、略号を用いて記載しているため判断が困難なものがあるが、第三者にも判定できるように記載すること。
- 8、転記した傷病名の整理が行なわれていないため、多くの傷病名が羅列されていること。
- 9、入院患者に係る指示事項が診療録に記載がなく、温度表等の記録で代用しているものがあるので、規定の用紙に記載し整理すること。
また、入退院時の記載が殆ど行なわれていないため診療録上では外来との区別がつかない例も見られたこと。
- 10、資格取得欄の記載もれが多いが、資格関係の過誤を防ぐためにも必ず記載すること。

- 11、慢性疾患指導科の算定の場合は指導の要点を診療録に肉筆で記載しておくこと。
- 12、継続医療の患者で承認外疾病が発生した場合は、別保険の診療録を作成し一緒に編綴しておく。

〔診療内容〕

- 1、投薬、注射及び処置の内容がd。方式で何か月も行なわれているが、月1回以上は、現在の治療内容を診療録に記載し、治療内容の見直し及びその効果判定と評価を行なう。
- 2、医薬品の適応外処置が多いが厚生大臣の認める効能、効果、用法及び用量に基づいて行なうこと。
- 3、消炎鎮痛剤など混合注射を長期に漫然と実施しているが急性症状が消失するまでに限定すること。
- 4、同一薬効、同一成分の投薬と注射の重複が多く見られること。
- 5、スクリーニング検査と称して画一検査が行なわれているが保険診療においては、診断、治療効果の判定、経過を見るため必要な範囲に限定すること。
- 6、糖尿病、慢性脾炎において、必要な検査を月一度も行なわずにインシュリンの注射、フォイパン錠の投薬を行なっているが適当な治療とは思われないこと。
必要な検査も行なわず治療を行なっていることはその治療法に疑問があること。
- 7、保険診療における検査は一般に段階的に順序をふんで行なわれるべきものであり最初から精密検査を行なわず一般的なもの又は定性検査から行なうものが常であること。
- 8、慢性リュウマチ性関節炎の診断名が異常に多く見られるが慢性関節リュウマチの診断基準に従い正しい診断名をつけること（保険病名と思われるものが多い）

9、湿布処置を漫然と年余にわたって行なっているが、病状の把握とその必要性をチェックし効果判定を行なうこと。

10、ステロイドホルモンを関節腔内注入しその直後に運動療法を行なっている例がみられたが注入後は安静を保たせるのが常である。

11、介達けん引及び理学療法を漫然と長期間継続されているが定期的に病状の把握とその必要性をチェックし効果判定を行なうこと。

[診療報酬]

1、保険請求に当たっては、医師が診療録とレセプトの突合せチェックを行なうこと。

2、介達けん引及び理学療法と同時に同一部位に行なった湿布処置料は算定できないのに算定している例が見られたこと。

3、運動療法を行なっているのに湿布処置料を算定している例が見られたが運動療法は全身一部位とみなすので同時算定は出来ないこと。

4、点滴実施中の患者や抗生物質の注射中の患者に運動療法（複雑なもの）を算定しているが認められないこと。理学療法35点が妥当である。

5、伸縮性包帯を四肢に用いて算定しているが、頭部、頸部、軀幹固定に用いた場合に限定されること。

6、キルシュナー鋼線、銀線等簡単に除去し得るもの骨内異物除去術で算定していたが適当でない。創傷処理の3を準用のこと。

7、閉鎖循環式全身麻酔に硬膜外ブロックを併用した場合にあっても主たる麻酔手技料しか算定できないことになっているのに両方算定していたが片方しか認められること。

8、服用時点が同一である薬剤を多剤に分割投与していたが出来得るかぎり一剤にまとめること。

（明細書に165円以下の場合薬剤名の記載が必要がないので分割を行ない適応外薬剤を行なっていた例がある。）

9、審査委員からの連絡文書、増減点通知書をよく検討し保険診療に反映させること。

[その他]

1、保険医療などの届出事項に変更があった場合は、速やかに変更届けを提出すること。

2、一部負担金の徴収は、自院職員の治療に際しても適正に徴収すること。

3、一部負担金の領収書を希望者のみに交付しているが全ての患者に受領の都度発行すること。

(5) 岩手県医師会健康教育委員会

担当 八角 理事

本年度県民健康講座は滝沢村で平成3年1月下旬～2月中旬まで4回程を予定している。

(6) 岩手県医師会広報委員会

担当 嶋 理事

いわて医報編集委員と都市医師会広報委員の連絡協議会は、2月8日県医師会館において行なわれた。例年の如く各都市広報担当者よりいわて医報に対しての意見交換があり、今後の課題とか対外広報活動としてどのように対処しているかなどが話し合われた。詳細はいわて医報3月号を参照のこと。

(7) 岩手県医師会生涯教育委員会

担当 上田 副会長

6月6日(火)県医師会館で開催

1、委員長に加藤十郎氏、副委員長に大堀勉氏、佐藤進氏が選出された

2、加藤委員長は平成2年度も生涯教育制度に力を入れ実施する旨を述べた

3、平成元年度生涯教育申告結果

平成元年度郡医師会生涯教育申告状況

対象者数は2月1日現在

	対象者数	申告者数	合計
盛岡市医師会	485	230	47.4
岩手郡医師会	63	50	79.4
紫波郡医師会	111	62	55.8
花巻市医師会	104	67	64.4
和賀医師会	81	41	50.6
水沢医師会	102	56	54.9
江刺市医師会	24	10	41.6
一関市医師会	91	89	97.8
東野井郡医師会	36	18	50.0
気仙医師会	69	57	82.6
釜石医師会	84	33	39.2
宮古医師会	76	37	48.6
遠野市医師会	28	21	75.0
久慈医師会	44	24	54.6
二戸医師会	53	46	86.7
合計	1,451	841	57.9

4 議 事

(1) 第1号議案

平成元年度一般会計決算書の承認について

平成元年度・一般会計決算書

自 平成元年 4月 1日

至 平成 2年 3月31日

社団法人 岩手郡医師会

科 目	予 算 額	決 算 額	摘要	要
繰 越 金	40,000	877,181		
全 費	2,470,000	2,600,000	A 会員 50,000×38人=1,900,000円 B 会員 30,000×22人= 660,000円 B 会員(中途入会)3人= 40,000円	
補 助 金	85,000	83,000	地域医療 28,000円 学校医 55,000円	
雜 収 入	5,000	26,095	預金利息他	
合 计	2,600,000	3,586,276		

科 目	予 算 額	決 算 額	摘要	要
会 賛 費	1,250,000	1,376,410	総 会(2回) 838,722円 理事会(5回) 485,427円 役員会(1回) 52,261円	
事 務 費	570,000	307,884	通 信 費 62,116円 消耗品費 116,998円 印 刷 費 16,480円 雜 費 112,290円	
広報発行費	300,000	297,000	印 刷 費 269,120円 配 送 費 26,280円 雜 費 1,600円	
旅 費	280,000	120,000		
交 通 費	100,000	50,000		
車 用 費	50,000	101,200		
予 備 費	50,000	57,700		
合 计	2,600,000	2,310,194	収入金額 3,586,276円 - 支出金額 2,310,194円	
次期繰越金	—	1,276,082		

(2) 第2号議案

平成元年度休祭日当番医会計決算書の承認について

平成元年度・休祭日当番医決算書

自 平成元年 4月 1日

至 平成 2年 3月31日

社団法人 岩手郡医師会

<1> 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘要
	円	円	
繰 越 金	1,000	2,453,675	
補 助 金	3,444,000	3,444,000	
雜 収 入	5,000	0	預金利息
合 計	3,450,000	5,897,675	

<2> 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘要
	円	円	
事務費	2,590,000	2,347,033	支部報償費 310,000円 健康教育費 310,000円 収容対策費 106,758円 県医野球大会 335,446円 県医ゴルフ大会 50,824円 県医スキー大会 19,618円 県医団体大会 8,618円 学校保健会 81,635円 合同研修会 988,994円 厚生対策費 135,140円
助 務 費	350,000	280,000	七市町村交付金
旅 遊 費	250,000	450,182	
投 税 費	90,000	0	
子 供 費	170,000	109,380	
合 計	3,450,000	3,186,595	収入金額5,897,675円 - 支出金額 3,186,595円
次期繰越金	一	2,711,080	

(3) 第3号議案

平成元年度特別会計決算書の承認について

平成元年度・特別会計決算書

自 平成元年 4月 1日

至 平成 2年 3月31日

社団法人 岩手郡医師会

収入の部	金額	摘要
	円	
繰 越 金	3,247,984	
岩手県医師会	1,196,020	県民健康講座負担金他
県予防医学協会	135,000	検診立会医依頼事務手数料
県医師信用組合	182,000	事務委託費
県医師国保組合	82,000	支部交付金他
雜 収 入	4,517	預金利息・指定医更新審査手数料
合 計	4,847,521	

支出の部	金額	摘要
	円	
郡学校保健会	100,000	補助金
岩手医学会	232,000	会員会費分
割烹 こう弥	71,173	医療監査の反省会開催
東北銀行	824	振込手数料(岩手医学会へ)
合 計	403,997	
次期繰越金	4,443,524	収入 4,847,521 - 支出 403,997

(4) 会計監査報告

担当 篠 村 監事

上記決算書については慎重に監査いたしましたところ、その収支は適正妥当なるものと認めます。

(5) その他

都市医師会地域医療担当理事連絡協議会について

8月10日(金) 県医師会館で開催

感染症医療廃棄物処理に関して、岩手県側から医務課と生活衛生薬務課の担当係長等が出席した

説 明

1、県側から市町村などの感染症医療廃棄物の受入状況について

2、県医事務局から岩手県産業廃棄物協会・医療廃棄物部会の資料に基づき登録業者名処理料金その他について

3、県医側から補足発言

質 疑……収集運搬、中間処理、最終処分の過程や体制が各市町村により全く異なる為に、各都市医師会からの個別的質問が多くかったが、1時間以上にわたり活発な質疑応答が行なわれた。

結 論

1、各都市医師会と保健所及び市町村間で十分に協議を重ね、処理業者とも連絡を取り、地域特性を盛り込んだ体制を整えること。

2、注射針等には特に配慮が必要あること

3、マニフェスト伝票用紙は県医で斡旋することを検討中

5. 閉会の辞

6. 懇親会

岩手郡医師会理事会記録

▼ 日 時 平成2年5月29日(火) 午後 6:30より

場 所 岩手県医師会館 第3会議室

出席者

高橋牧之介 上田靖彦 高橋 孝

西島康之 坂井博毅 佐渡豊 瓜田明義

嶋 信 及川忠人 八角正司 根本忠夫

上原充郎 和田栄吉

報告する項目

1、第1回学校医部会幹事会

2、都市医師会福祉担当理事連絡協議会

3、第39回産業医部会幹事会

4、平成2年度社会保険医療担当者指導方針打合会

5、岩手県臨床内科医会幹事会

6、岩手県外科整形外科医会

議 題

1) 平成元年度一般会計決算書の承認につ

いて

2) 平成元年度休祭日当番医会計決算書の承認について

3) 平成元年度特別会計決算書の承認について

協議したい事項

1、第42回岩手県医師会総会出席について
2、平成2年度県民健康教育講座開催につ

いて

3、岩手県医師会親睦野球大会について

4、使用済み注射器の取扱いについて

5、郡医各部会の担当者について

6、岩手郡学校保健会について

7、体育事業計画のこと

8、会員の入会・退会

9、その他

▼ 日 時 平成2年7月14日(土) 午後 4:00
場 所 岩手県医師会館 第3会議室
出席者
高橋牧之介 佐藤郁郎 上田靖彦
高橋 孝 西島康之 佐渡 豊
瓜田明義 嶋 信 及川忠人 八角正司
根本忠夫 上原充郎
報告・協議する事項
1) 第112回岩手県医師会臨時代議員会
担当 根本 理事
6月16日(土) 県医師会館で開催
1、各担当常任理事より活動状況の報告
2、三浦新也前会長を岩手県医師会顧問に推戴
3、加藤会長の挨拶 ① 医療法改正について ② 新岩手県勢発展計画について ③ 厚生年金基金の設立について ④ 職域型年金事業について ⑤ 医事紛争について ⑥ 医療廃棄物処理等について
4、議案第1号より第7号までを原案通り議決承認す
5、日本医師会代議員の補欠選挙で盛岡市医師会・久保木高氏を選出す
2) 第42回岩手県医師会総会第84回岩手医学会春季総会

担当 上田 副会長

平成2年6月24日(日) 遠野市医師会担当で遠野市民センターにおいて行なわれた。記念講演は午後1時30分より『中世南部氏考』と題して、東北工大教授伊藤英造先生が講演された。これに先立ち行なわれた岩手医学会では、特別講演として『抹消血球減少症に対する造血因子の臨床応用』と題して、岩手医大第三内科血液部門教授厨信一郎先生が、また『デジタル画像、最近の進歩』と題して、岩手県立中央病院副院長松岡昭治先生が講演され、会員に多大の感銘を与えた。当医師会

からは会員11名が参加し、また会員表彰として宮杜亨先生、近藤純造先生が表彰を受け、早藤一雄先生が平成元年度秋の叙勲(藍綬褒章)受賞者として祝賀された。

3) 健康教育委員会

担当 八角 理事

6月30日(土) 県医師会館で開催

- 1、委員長に佐藤進副会長、副委員長に吉田新二常任理事を選出
- 2、平成元年度の県民健康講座は県内16地区で延べ73回実施し受講者は1,740名
- 3、平成2年度の県民健康講座の共通テーマは、高齢者の健康・心の健康食生活に関すること。

4) 第51回勤務医部会幹事会

担当 佐藤 副会長

5月28日(日) 開催。第11回全国医師会勤務医部会連絡協議会の規約改正について対応を協議した。

7月7日(土) 県医師会館で開催

- 1、部会長に谷口繁し、副部会長に御供陽二氏、田島達郎氏、盛合薰夫氏が選出
- 2、第11回全国医師会勤務医部会連絡協議会世話人会について
- 3、ガン登録の状況
- 4、日本医師会勤務医委員会についての報告

5) 県教委との打ち合わせについて

県医師会と県教委との打ち合わせ会において、学校医が学校産業医(仮称)として診療に従事した場合の報酬等について協議した。

6) 第8回岩手県学校保健・学校医大会の演題募集について

いわて医報7月号、8月号、9月号に詳細は、掲載されますが、平成2年10月末日までの〆切。

7) 病院経営セミナーの開催について

8月11日(土) 県医師会館4階ホールで開催。
県医師会と社会福祉医療事業団との共催で行なわれた。

社会福祉医療事業団常任顧問、桶川和氏より同事業団の概要、融資の案内、病院の経営分析について説明あり。

講演は「21世紀に向かっての医療」—医療法の改正と長寿福祉社会の展望—について講師は、盛岡一高卒、東大出身総理府社会保障制度審議会事務局長（前厚生省大臣官房審議官）清水康之先生。講演の内容は、医療の位置付けと基本的な考え方。保健・医療・福祉をめぐる最近の動向、医療をめぐる当面の課題（医療法の改正、看護要員、税制、法人化、救急、僻地、臓器移植、プライマリーケア、ターミナルケア等）について多岐にわたり解説された。

岩手県は、福祉医療の先進県であると言及し、明るい活力ある長寿福祉社会をめざすことを期待すると結ばれた。

8) 岩手郡医師会岩手山登山について

1、日時平成2年7月29日(日) @雨天時行事変更する

2、参加資格岩手郡医師会、会員・職員・家族 年令、性別を問わないが、登山に充分耐える体力保持者

3、コース及び日程

*網張コース 網張温泉より登って、網張温泉へ下山する。

9:30 滝沢・高橋医院前 マイクロ・バスで出発

10:30 零石町経由で網張温泉着

第1・2・3・リフトを利用して登山開始

11:15 犬倉鞍部着

11:40 犬倉山(1408m)着

12:00 下山(リフト利用)

13:00 網張温泉着

岩手山麓国民休暇村にて食事

帰路は零石町経由で

*参加者は自分の健康状態をよく考えて参加すること

*参加者は自己の安全について責任を持つこと

*服装は特に限定しないが、動きやすい服装とすること

*靴は、登山靴、キャラバンシューズ又は底の厚いズックがよい

*包み紙や不要になった空箱など捨てる人がいるが、山ではものを捨てずに持ち帰るのがルールである…国立公園クリーンキャンペーン

9) 第24回岩手県医師会親睦ゴルフ大会について

9月24日(日) 振替休日に一関市医師会の担当で、南岩手G、C(花泉町)において行なわれる。

10) 第24回岩手県医師会親睦野球大会(久慈市)について

8月25日(土) 大会前日宿泊地は久慈グランドホテル。次年度の開催地の関係で多数の参加を希望します。

11) 第43回岩手県医師会親睦野球大会について

平成3年8月25日(日) に零石町営球場を中心零石町内小、中学校を会場として予定している。また親睦会場としては、つなぎ温泉ホテル大観を予定している。これからそれぞれ役務担当を決め、実行委員会が組織される。

12) その他



第42回岩手県医師会総会、第84回岩手医学会（春季）総会に参加して

零石町 上原 充郎

6月24日朝7時30分に県医師会館前を及川忠人先生の御好意により、病院（東八幡平病院）のバスで岩手郡医師会員は出発した。バスには佐藤郁郎先生、西島康之先生、和田栄吉先生、上田靖彦先生、及川忠人先生、高橋孝先生の6名が乗り込んだ。高橋牧之介先生は前日釜石に一泊されたので、釜石からの御参加となった。佐々木久夫先生、瓜田明義先生、森茂雄先生はそれぞれ御自分の車で参集された。私は帰路所用があったのでマイカーでバスの後について遠野市へ向かった。大学医局時代に、釜石国立療養所へ出張時、よく通った遠野路だが、あれから約20年たった今日の道路はほとんど以前の面影が無いほど拡張され、整備されていて約1時間で会場の遠野市民センターに到着した。会場はすでに参加者の受付が行なわれ、ロビーのあちらこちらでは、しばらくぶりの立ち話や、情報交換でにぎやかだった。今回気が付いたのは、以前よりも御婦人の多いのが目立ったように思う。たぶん“福泉寺及び遠野物語の旅”の観光の為に御主人様と御同伴されたのだろうと思われた。

会場のいたるところに、担当された遠野市医師会の先生方の細やかな温かい御配慮が感じられ、御苦労様でした、ありがとうございますと自然に心のなかで感じたのでした。9時30分定刻通り開催され、進行は小林高県医常任理事により爽やかに行なわれた。物故会員に対する黙祷が吉田新二県医常任理事によりとり行なわれ、次に加藤十郎県医師会長の御挨拶が行なわれた。その内容は県医師会の重要性、総会を担当された遠野市医師会に対する感謝の御言葉、会員の感謝状、表彰状を受けられた方々へのお祝いの御言葉をのべら

れ、更に医療法改正や有床診療所等、医政へもふれられた。次に上原伸一県医常任理事により報告、議事とスムーズに総会は進行し、続いて会員表彰が行なわれた。感謝状は荻野勤治、小早川源郎両先生に会長より授与された。荻野先生は多少お体が本調子ではないようと思われたが、それでも御自分で壇上に登られ感謝状をお受けになられたお姿にただただ頭がさがる思いがするばかりでした。表彰状は25名の先生方に授与されたが、こちらは被表彰者の代理が多く、ちょっぴりさみしい感じがした。定刻より少し早目に総会は終り、休憩の後に医学会総会と特別講演が行なわれた。

特別講演は2題あったが私は松岡昭治先生の『デジタル画像最近の進歩』と題した講演に特に感銘した。この講演内容は画像診断についてX線的なものとして、CT、DF、DSA、CRなどを、RIを応用したECT、SPECT、PET、さらに非放射線のものとして、MRIを解説され、これ等による肝がん、腎がん等の実際の症例を本当にきれいな画像として呈示して下さいました。スライドで次々と写し出される画像を見ていると、その病変部位を直接見ているような錯覚におちいりそうになるほど美しい、分かりやすいものでした。この様にして12時40分午前の部は終了して3時からの懇親会のごちそうのため牛乳とサンドイッチの軽い昼食をいただきた。尚、岩手県医師会員数は約1700名で参加者が約150名で14%の出席率。岩手郡医師会員数は約60名で参加者は11名で約18%の出席率であった。参加者が少ないので何故だろうと考えたりして安全運転を心掛けながら帰路についた。

「完」

平成2年度岩手医大圭陵会 医学部同窓会評議委員会・総会に参加して

医学部評議員 早 藤 一 雄

同上 岡 本 彰

上記総会が去る5月27日開催され、私共出席したので、その大綱と重要事項のみを会員各位に報告します。

会長 長野正行先生（宮城支部）

議長 高山和夫先生（学内支部、教授）

来賓 大堀勉学長、小野繁圭陵会長（医学部長）

評議員過半数実出席、

議事

1) 平成元年度決算の承認

剰余金は従来通り圭陵会に帰属

2) 平成元年度事業報告、承認

従来の圭陵会事業内容と凡そ同様。

3) 平成2年度收支予算、承認

この件については稍々論議があったが、次に述べる通り説明があり了承する。

会費の推移

現在圭陵会員数は6,614名

うち医学部同窓会員数、4,513名（他は歯学部同窓会員）である。

圭陵会費現在、年会費8,000円納入者は約600名、他は總て永久会費納入済み者である。年間収入は、事業収入（生保会社より1,000万円、特別会計利息（預金額約1億4千万円）、両学部同窓会より入金（人件費、その他）等により賄われる。新卒者は永久会費を戴いて居る。

同窓会費、（医歯両同窓会共通）

本年度迄は圭陵会より支給される470万円で予算が作られる。

平成3年度からは、圭陵会に納入される年会費、永久会費等の収入を両部会員数のうち、その1%を圭陵会の維持費とし、%を両学部の収入として予算を組む事とする。医学部会では今後数年間はこの方針で間に合う見通しである。

尚、将来、上記収入で不足の場合、両学部は、夫々独自の会費、又は臨時会費を徴集し得るとの会則改定案は保留されたが近い将来に実施される可能性が大きい様であった。

本年度以降の事業方針

従来通りに大学をバックアップする基本を保持し、圭陵会と協調しながらも医学部独自の事業を活発に実施する。

創立六十周年記念事業について

本件は故小原学長当時に計画され、旧日赤病院跡地を取得して居り、記念館を建築する事に決定して居る。圭陵会はその費用の分担金として20億円の寄付をする事を議決して居る。然し実施時期の遅れにより、建築費、内部諸設備の値上りとなり、現在の概算見積りでは一坪当たり170万円、総額概算75～80億円を要する見込みであり、圭陵会の寄付金も増額をお願いする。会員一人当たり60万円位となるが会員の卒業年次、開業医、勤務医、等を勘案して最終決定。又分割払いも考慮中との圭陵会長、学長からの説明と要望があった。更に岩手町より川口地区の山林原野の無料提供（但し五年以内の使用開始）の申し出があり、大学では種々協議の結果これを受理した件の報告があった。

その他、理事の増員、監事の交替を承認。

以上、走り書きで主要事項を記述したが母校、圭陵会、同窓会の益々の発展を念願して止まない。（文責 早藤）

追伸 本郡医師会員の大多数の方は、医大、圭陵会に関係がありますので、医報の紙面を拝借して掲載して戴いた。乞御了承。

岩 手 山 登 山



滝沢村高橋医院 松 本 ミツ子

さとの山”岩手山。その頂上を目指し、去る7月29日、郡医師会会員職員家族、栗石町の網張に集合したのであります。出発時は、曇り空でしたが、たぎる熱気に押しまくられ、のち快晴。あこがれの雲海も望め、山歩きの楽しさ、苦しさを体験し、帰りの車中は静かな吐息のみでした。

左の写真は途中一服して英気を養っている（！？）ところです。おにぎりのおいしかったこと！

駅に降り、帰ってきたことを実感する“ふる

「岩手山登山に参加して」

葛巻町 西島病院 栗 畑 良 子

7月29日（日曜日）岩手郡医師会岩手山登山が行なわれました。私は登山は未経験なので不安と期待で参加しました。当日は高橋牧之介郡医師会長他各町村の先生及び職員の方々総勢21名が参加されました。葛巻町からは西島医院の私達7名が参加させていただきました。

葛巻町を8時に出発するときは霧におおわれ網張に着いたときも岩手山は霧におおわれて見えず肌寒い天候で登山が心配されました。登山に先だちリフトの前で高橋会長より登山の心得と注意等のご挨拶があり直ちに登山を開始しました。第1リフトに乗ったときは依然として岩手山は霧におおわれて視界が悪く第2リフトに到着するといままでの霧が嘘みたいに消え岩手山もくっきりと頼もしい男性的な姿を現わしてくれました。医師会の先生がたの日常の精進がいいからだと思いました……第3リフトを降り頂上を目指して歩きました。普段運動不足な私は体力に不安を感じていましたが参加者の年齢を見て正直いって私はま

だ若い、これなら大丈夫という自信めいたものがわいてきました。登山に参加した方々の服装を見ていると高橋会長とうちの院長だけが登山装備をしていたのに感心しました。他の皆さんと私は普段のままの軽装でした。登山を開始して1000mぐらい登った所で栗石の高橋孝先生ご夫妻が高山植物、山野草をこのあたりで観察すると言われました。高橋孝先生は高山植物、山野草に非常に造詣の深い方だそうです。途中院長が少しおくれだしました。「動棒がした。早足で登ったからだ。本当の登山家は一步一歩ゆっくり大地を踏みしめて登るのが本当だよ。みんなが登山を知らないのだ」と負け惜しみとも思える言葉が出ました。

目指す岩手山（犬倉岳）にやっと登頂しました。みんなでバンザイをし、それを写真におさめ、おにぎりを食べました。こんなに美味しいおにぎりは食べたことがありません。先生方はもちろんの事病める、傷める人たばかりに接する職場の私達にとっては岩手山及

びその連なる山々のすばらしさに心が洗われる思いがしました。

午後1時下山開始。下山は登りより楽でした。下山しみんなでいただいた生ビール、ジンギスカンの美味しさは格別でした。

後日、「郡医師会のスポーツ活動には職員のみんなが参加しなさいね。」と院長に言われました。私達の日常は精神神経ストレス要因の強いぐったり疲労の方が多くなっていますが、スポーツの疲れは爽やかな疲れであり、日常のストレスもとんでも消える感じがしました。そして翌日からの仕事にも力が入りました。郡医師会のスポーツにはそういう意味でも職員全員が参加してもらいたいと思いました。私達も本当に楽しい岩手山登山をさせて

いただきました。このような企画をしていただいた高橋会長及び先生方御苦勞様でした。以上岩手山登山の印象を私の思うがままに書きました。

—後日談—

岩手山登山そしておいしい食事をいただき、温泉に入りすばらしい楽しい1日がありました。帰途車にのって1分もたたずに院長は疲れたのか鼻音をたてて眠ってしまいました。当日の晩は葛巻の夏祭り花火大会があり、それに院長は招待され夜8時頃から夏祭りに行くことになりましたが、目がさめたら夜の12時であったそうです。後で院長もやはり歳だなぁとみんなで大笑いました。

第42回岩手県医師会親睦野球大会始末記



岩手郡医師会チーム ベンチ

久慈医師会担当の第42回県医師会親睦野球大会は平成2年8月26日午前8時開会式の幕が切って落とされ、午前9時から好天の下8会場で試合が開始された。

岩手郡チームは1回戦は不戦勝で、午前9時50分に気仙チームを破って意気揚がる金石医師会チームと対戦した。結局午前10時46分時間切れで下記の如く金石チームに名を為さしめ、暑い夏の行事が終了した。

	1	2	3	計
金石医師会チーム	7	2	5	14
岩手郡医師会チーム	5	0	0	5

近藤純造

両チームのスタンディング・ラインアップは下記の通り

釜石医師会チーム 岩手郡医師会チーム

1 (中) 村上	1 (遊) 嶋
2 (左) 上村	2 (二) 岡田
3 (一) 井上	3 (捕) 奈良坂
4 (三) 及川	4 (三) 土谷
5 (遊) 川上	5 (左) 篠村
6 (二) 谷村	6 (一) 高橋(克)
7 (右) 田沢	7 (右) 及川
8 (投) 福田	8 (投) 上原
9 (捕) 小泉	9 (中) 伊藤

【試合経過】

(1回の表 釜石) 先頭打者の村上、遊ゴロ、これを鉄壁の守備を誇る嶋、1塁に悪送球し、連携プレイの乱れなどあって一挙三進、次打者上村死球、続く井上何でもない投ゴロをエラーし、村上生還、及川四球後二盗、

川上の右前安打で上村生還、自信満々で登板した上原投手であったがコントロールが乱れ、一死をも取れずに降板し、投手岡田に交代し、上原は二塁に回った。打者谷村の時、バッテリー呼吸が合わず捕逸で三塁走者生還、谷村は四球、田沢三ゴロを一塁に悪送球し、進塁していた走者が生還、福田遊ゴロでやっと一死となつたが、この間に三塁走者生還、さらに小泉の左前安打で走者一人生還、打者一巡し村上左前安打後二盗、上村遊ゴロ、又も連携プレイの乱れから走者生還、井上二飛でやっとチェンジとなつたが、この間一挙7点先取された。

(1回裏 岩手) 嶋、四球後二盗、岡田もよく四球を選んで出塁、打者奈良坂の時重盗、奈良坂一ゴロで一死となつたが、敵の内野手の連携プレイの乱れに乗じて二者生還、土谷振り逃げ後二盗、篠村投ゴロエラーで出塁、高橋(克)左前安打、三塁手のエラーを誘って二者生還、高橋三塁に進み、及川三ゴロで二死となる間に高橋よく生還し、上原三ゴロチェンジとなつたがこの回同じような敵失から良く5点を返した。

(2回表 釜石) 及川左前安打後二盗、川上の左飛を篠村好捕し一死、谷村三ゴロで二死、この間に走者三進、打者田沢の時、捕逸あり三塁走者生還、田沢の当たりは三塁内野安打となり二盗、福田左前安打、打者小泉の時捕逸あって三塁走者生還、小泉遊ゴロでチェンジとなつたが2点を許した。

(2回裏 岩手) この回先頭打者伊藤三ゴロエラーで出塁、嶋のよい当たりの左飛も好捕されて一死、岡田四球で出塁し重盗を決め走者二、三塁となる。期待された奈良坂三ゴロで二死、土谷四球で二死満塁と絶好の反撃期を迎えたが、次打者篠村の当たりは惜しくも三ゴロとなり、二塁走者が三封されてチェンジとなり無得点。

(3回表 釜石) 我がチームはこの回土谷が投手となり、嶋三塁、岡田遊撃に回る。村上の三ゴロを一塁に悪投し二進、上村の当たりは左中間を深く破るランニング・ホームとなり二者生還、井上三塁横を破る二塁打、及川左越え二塁打で走者生還、川上右飛で一死、谷村の代打四球後二盗、田沢打者の時投手のワイルド・ピッチで三塁走者生還し4点目、田沢遊飛で二死となつたが、これが儀打となり三塁走者生還、福田

の何でもない投ゴロを一塁に悪送球し二進、小泉の安打性の当たりを岡田が判断よく本塁に投げ、三塁からの走者を殺しチェンジとなつたが、この回エラー絡みで5点を許した。

(3回裏 岩手) 高橋(克)の代打佐藤が三振、及川の代打西島が捕ゴロで二死、上原の代打高橋(牧)が粘りに粘って四球で出塁し、続く伊藤が左前に快打を飛ばしチャンス到来したかに見えたが、続く嶋の打球は痛烈なる遊ゴロとなり、走者が刺され、規定時間が来て試合が終了した。

(総評) 出陣前、久慈グランドホテルロビーで無四球を約束した上原投手であったが、ぶつけ本番では勝手が違うか制球難で、更に鉄壁の守備を誇る内野手が一塁に悪送球したり、その後の連携プレイの乱れなどから、1回に早くも7点献上したが、本来の調子であれば3点止まりに抑え得たと思われる。医師会野球では出塁即盗塁が常識?となっていて大きな得点に繋るが、内野守備の乱れが惜しまれた。併しその裏に、敵の福田投手の立ち上がりの制球難と、高橋(克)の巧打などで5点返したのは立派であった。2回の裏、二死満塁の好機に、我がチームの主力打者篠村の痛烈な当たりが、不運にも三塁正面を衝いて得点出来なかったのは残念だった。総じて日頃の練習不足の結果がそのまま試合に出た様に思われ、来年は開催地もあるので各自反省に努め機会ある毎に練習を積み、好成績を挙げる事を期待する。



代打に備え素振りする

高橋会長

ピッチャー

零石町上原充郎

「ピッチャー交代！」高橋牧之介監督が三塁側ダクアウトから駆けてくる姿が目には入った。これで終ったんだ！という気持と、こんな不本意な投球で終るなんて！という遣り切れない残念な気持と、チームの全員に申し訳ないという気持が一度にどっと脳裏をかすめた。8月26日、今年の県医師会親睦野球大会が久慈医師会担当で久慈市に於て行なわれた。当チームの大半は前日の夕方に久慈グランドホテルに着き、6時30分より恒例の前夜祭を行なった。この時のメンバーは高橋会長、近藤総監督、佐藤郁郎主将、西島内野手、奈良坂捕手、伊藤外野手、高橋克郎内野手、それに小生と県医師会の星川君でした。前夜祭では以前の野球大会の思い出話や、明日の大会への思い入れや、来年の当郡の野球大会担当等、にぎやかに前夜祭を行ない各自早目に床についた。26日ホテルで朝食をとり会場へ。主会場は久慈市営球場であり、良く整備されていた。薄日さす、少し暑いが浜風が心地よく、8時に開会式は始まった。久慈中学校吹奏楽部の軽快なマーチで颯爽？と行進し、参加チームの選手入場である。斎藤昭久慈医師会副会長の開会の辞と同時に伝書鳩の群舞。加藤十郎大会会長のユーモアをまじえた短めの挨拶、久慈義昭市長の市アピールと医師不足を訴えるはぎれのいい祝辞。青木喜彦県代議員の楽しい選手宣誓と続いた。そして当医師会長による来年度開催地の医師会長挨拶と会場アピール。今年の開会式は近年に無い短時間で充実したものと思われた。

我チームメンバーは前夜遅く、及川忠人外野手が到着、開会前までに嶋内野手、岡田、土谷両投手、篠村外野手の全メンバーが集合した。試合開始のサイレンが鳴り響くなか、第一球を投げた。「ボール」。カーブが外側にはずれる。第二球「ボール」、シュートが内側に切れる。試合直前の投球練習では見事に

きまっていたのに。内角低め、外角低めにストライクを投げようと力む為コントロールは乱れる。我チームの対戦相手は氣仙と釜石と対戦し勝った釜石チームだ。今日のためにピッチャーをやろうと練習を開始したのが6月の郡医師会理事会の後だった。ほとんど毎日の様に昼食時や診療の合間に薬屋さんを相手に50～100球ぐらいの投球練習をしてきた。練習開始10日目頃より右肩を動かすとゴリゴリと異常音がし、投球するとひどく痛む。練習が終るとすぐ肩を湿布したり、消炎鎮痛剤を服用したりして、翌日の練習に備えた。土、日は練習を休んだ。

町営球場を借りてマウンドよりの投球も数日行なってみた。自分の全力の8割ぐらいの力で投げるとうまい具合にコントロールできるようになった。三球目は直球、三遊間のフライがヒットになる。2番打者ファーボール3番打者デットボール、あれよあれよという間に満塁になってしまった。この辺より頭の中はパニック状態。ストライクを投げなければと力み焦るとカーブは外角にシュートは内角にとストライクゾーンをはずれる。ワンアウトをとった。少し安心。しかしすぐホームスチールで一点先取される。マウンド上で練習の時の様に投げるんだと自分に言い聞かせても全力で投球してしまうためコントロールが乱れる。この時だ「ピッチャー交代。」この様にして我人生最初のピッチャーは終った。来年は零石町で43回目の県医野球大会がある。今年の雪辱を期して今より練習を始めている。



おらほの先生

昨年十月、岩手町では、保健事業に対する取り組みが評価され、「保健事業推進厚生大臣賞」を受賞致しました。

当院長は、昼食を見る間も惜しんで、岩手町保健課や、町内の先生方の所で集団検診について話し合いを行なってきました。

そのため、午後の診療時間になんでも帰ってこられず、こちらから電話をかけて急いで戻っていただきましたこともしばしばでした。

岩手町では、「健康はみんなの願い」をスローガンに、各地で町内の先生方による夜間の健講座を開催し、検診の大切さを訴えてきました。

また、昭和61年からは、特に循環器検診受診率の低い地区を対象に、三ヶ年事業として「草の根保健事業」を行ない、受診率を向上させることができました。

例えば、循環器検診の受診率は、昭和60年の28.1%から63年には、56.0%と約2倍に上昇してきました。同時に、胃集検、子宮癌検診も約2倍近くに達しました。

今年からは、初めて大腸癌検診も加わり、院長の力の入れ方にも、新たなるものがあります。外来でも患者さんに、大腸癌検診の必要性、内容など、時間のある限り説明しておられます。

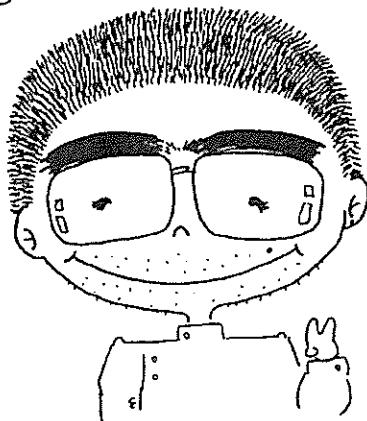
岩手町 佐々木医院の巻

それともう一つ、寝たきり老人に対する医療や生活指導などのために、今年は何としてもチームを編成して取り組みたいと、意欲満々の院長です。

岩手町の保健事業に力を入れておられる院長は素晴らしいのですが、御自身の健康管理も同時に力を入れてほしいと、陰ながら心配致しております。

院長のもとで仕事させていただいている私達も「健康はみんなの願い」はもちろんのですが、同時に「院長の健康も私達の願い」なのです。
(遠 藤 智恵子 記)

おらほの先生



隨 想

懷

零石町 高橋 孝

先生！農家の懷具合が悪いとタクシー代も馬鹿にならず、二回来るところ一回で我慢シネバナネ。そうすると先生達も困るんだぞ！と農家の人は日頃の米の自由化等を心配して話をしている。広辞苑にて「ふところ」を引いてみた。1着た着物と胸の間、2比喩的にあたたかく迎え入れてくれるところ、または抱擁力、3物にかこまれた所、4心の内、胸の内、5内部、内幕、6所持金、その他に懷具合、懷鏡、懷刀、懷紙、懷勘定、懷硯、懷住、懷育、懷鉄砲、懷時計等々とある。先生達もよく耳にする懷石料理、又私の様な「かな書き」が使う懷紙もこの懷から由来している。懷石料理も寿司懷石、フランス懐石料理等々いかにも日本料理が健康食とは言え懐石料理が氾濫している。先生たちも御存知の様に懐石と言うのは茶道における食事の方法で、一つの食事の礼儀ととられている。元來懐石と言う言葉は禪宗の薬石と云う言葉から出たもので禪宗達は昼食以外の食事は出来なかつたが日の長い時にはそれでは翌朝迄飢えをしのぐ事が出来ず、晩粥をとる必要があった。それが病を癒し、修行を行なうために必要であったのでこれを薬石と云って許していた様である。そしてこの意味は温かくした石を懷に抱いて一時の飢渴をしのぐと云う意味があり、後に懐石即ち温かな石、温石と云う文字になった。懐炉を温石とも云う地方がある。しかしこの懐石料理はお粥のみの粗末なものであったが武家、貴族の中に入ると贅沢をきわめ、外国人からみた当時の日本人の料理を次の様に書いている。「日本人の食饌は常に清潔にして且つ美を盡せり、食卓は方形にして低き一つの脚ありて、一人一人卓なり。食

饌の更る毎に器を改む、布巾の設けなきは食卓甚だ美にして和簡最上の布と雖も之に蓋覆するに足らざるに因る。食卓は松、杉板を以てし書きたるもの、漆たるもの、金銀を鏤めたるもの蒔絵のものあり、宴を開くときは通常例始め二、三種の肴を出す、客は酒を用ひず、此の肴を食して了って第二回の酒饌に及ぶ、中等以下の人には米、野菜、魚肉を常食とする。富者は美食に誇り、その食卓肉菜を推かく盛り立て、恰もエジプトの高塔の如し、肉には金粉をふり、又杉樹の一小枝を添ふ。貴人の食にはときとして鳥全体を用ふる事あり嘴を飾るに金を以てし、脚を去る事なし」とある足にきれいな紙を巻いて手に持ちやすくしていた様です。寿司懐石、フランス懐石等を見るとただ器がきれいで、料理が少なめに入り、器数が多く出る、これを懐石と思っている様に私は思いますが先生達は如何お考えですか、ただ私が25年位前に、盛岡市の百榎で一度料理を食べた事がありますが、日頃に料理の盛合せの上に7、80cmもある梅の花が咲いていた枝が乗っていたのに驚いた事があり、これも懐石のなごりなのか、ただ心が大変和んだ記憶があります。懐石料理に始めは肴を食してより酒饌に及ぶとあるが、乾杯の音頭で、ラッヘン、エソファーグス、空のマーガンにブツブツ何か物を云いながら流れ入るビールの味は何とも云えず、始めから酒饌でケッコウ、ケッコウである。又「かな書き」が使う懐紙は縦32cm横40cmの紙で懐に置んで入れていく、必要に応じて詩、和歌、消息、覚書、絵等を書いた様だ。実際に使っているのはこれより少し大きいが、高価な物は一枚4、5千円もする。細字を書くときはこの紙を3

枚半に勝負をかける。手に汗をかき、歯に力が入り、書き終えると未熟な私等はクタクタに疲れる事が多い。展覧会が多い5、6、7月は歯が痛くなり歯科にも通い、この間は眼も悪くして眼科にも通院し、不健康な趣味なのかも知れない。最近中国の漆硯と云うものを手に入れることができた。これは漆を塗りかためたもので、非常に軽く懐に入れて歩いても良い硯で、懐硯としても良い物である。因みにお茶で使う、お茶碗を拭いたり、お菓子を

いたしだく懐紙は縦14cm横17.5cmの小菊と云う美濃紙との事である。最近はピリピリしていて医者をかくまってくれる懐もなく。懐具合もサラリーマンより悪く、年金も65才から聞く、ゲヒルンが隙間だらけとなり小さくなつて。レンデンに力が入らなくなつてから年金で少し懐具合が良くなつてもどうにもならないのでは?、もう少し若いうちに懐勘定の出来るうちにいただきたいものである

「保育所健診こぼれ話」

西根町 嶋 信

先日近くの保育所の定期健康診断に出かけたときの話ですが、いつものことながら保育所では昼食を食べたあと、約2時間程「仮睡」(おひるね)の時間があります。それでこの健診も仮睡の終わった頃を見はからって出かけます。ですからまだ眠そうな目をこすりながら、しうしう健診を受ける児童や未満児(3才以下)は仲々自分の布団から出たがらないし、以外としっかり睡眠をとっている様子で、少ない時間で熟睡し、しまいにはまだ眠いけど担当保母さんに抱かれて診察にやってくるという状態である。

診察は保育所事務室で行ないますが、(小さい未満児の部屋はガラス張りで事務室から見える。)周りには殆んど担当保母さんも付添つており、児童たちは診察が始まると、今日はどんなことをするのか、また注射もあるのかなあと不安でたまらない様子がありあり……一列に並んでと保母さんが言っても列がくずれていつの間にか横に拡がったり、前の人にくつかんばかりとなることもしばしばで、時には自分の前の人の頸の横から顔を出してのぞき込まんばかりの児童もいます。ある児童は、前の人との診察(胸部診察、そのあと脊柱の診察のため背面の診察をする)が終わる

や否や私の前に来て、いきなりくるっと後ろを見せる児童もいます。これは前の人をのぞき込みながら自分も一緒に診察してもらつたつもりで、一気に自分の順番になって、背面から診てもらう…………というようになってしまったのではないかと想像されます。

また、こんな児童もいます。

診察を前にして大きい声で「よろしくお願ひします。」と一礼する児童が殆んどですが、終わったあとも「ありがとうございます。」ということばも大体の児童はいいますが、最初に一気にしゃべってしまう児童がありました。即ち、診察のとき「どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございます。」と一礼しました。まだ診察も終わらないのにありがとうのことばをいわれてしまって………これには大爆笑!!

児童にはちょっと待って!といつて呼び止めて改めて診察しました。周囲にいる保母も苦笑していました。たぶん、自分達が子供達にこういいなさいと教えたことがよく理解されていなかつたのではないしょうか。

また、こんな児童もありました。真面目な顔で自分の順番となつたとき「よく見て下さい。」といって診察を受ける児童もおりました。

意外な発言にどきりとすることもあります。このように児童の健診にはいろいろなハプニングがあって楽しいひとときです。また、こういう健診や予防接種のとき、われわれ産科医にとって自分のところで生まれた児童が成長して保育所生活をしているのが数人います。これらの児童が元気な姿で、自分

の目の前で診察を受けていることは非常にうれしくもあり、たまに一声かけてやったり、励ましてやったり、一瞬ではありますが何ともいえない感慨にひたるときもあります。小さな町内ですから健診や予防接種のときの予診票の保護者欄を見れば、大体どこの児童であるか想像がつくというものです。

編 集 後 記

・秋涼の候となり、朝、夕めっきり涼しくなって参りました。郡医師会の行事として、7月29日に零石町網張スキー場より「岩手山登山」を試みました。会員従業員、家族など総勢20数名参加したようですがそれぞれの体力に合わせて、上方まで足を伸ばした人や、途中自分はこの位で十分という人などいろいろであったと聞いています。ことのほか下山しての水分補給（ビールであったり、ジュースであったり……）はとても気持ちよかったです。それぞの報告者が申しておりました。貴重な体験記をお寄せいただいた方々に厚く御礼申し上げます。これから企画にも多数の皆さんへの参加を希望します。

・8月から9月にかけては県医師会の庭球大会、野球大会、ゴルフ大会などが行われます。早い最中、多数の会員がそれぞれに活躍されます。その中でも、久慈市において開催された第42回野球大会は、好天のもと当医師会も1回戦不戦勝のあと2回戦から登場し、気仙医師会を零封し（8-0）して意氣あがる釜石医師会と対戦した。先発メンバーの年齢を見ても確かに当医師会が平均年齢では高齢に見えたが、練習での動きは軽快であった。がしかし、実戦ではエラーが出てしまう。もっと試合を経験しないと年1回の試合ではなかなか解決が無理か……今回初めて先発マウンドを踏んだ上原先生は、次回へ捲土重来地元開催に向けて頑張ってほしいと思います。

・久慈市での野球大会の観戦記は、マスコミの野球記者も驚く洞察力で、葛巻町の近藤先生

に詳細な試合の模様を書いていただきました。いつもながら感謝します。これからもぜひ叱咤、激励をお願いしたいと思います。次年度はいよいよ当医師会の担当で野球大会が、零石町営球場をメイン会場として行われますが、野球にあまり興味がない方も来年8月25日㈰には多数参加して、各係を分担し、ご協力してほしいものと思います。

- ・零石町高橋先生には、いつもながら丁寧な筆致で、書道で学んだ「心の健康」を実践されているような御寄稿をいただきありがとうございます。
- ・「おらほの先生」には第1支部岩手町佐々木先生をご紹介いただきました。日頃接している職員の先生に対する心づかいなど感じられます。
- ・今年の暑かった夏も夜の虫の鳴き声の大きさと共に去ろうとしております。スキモ道端など野山にたくさん見えはじめ、確実に秋が近づいています。

（M.S 記）

